

## 単元名 1けたをかけるかけ算の筆算

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) (2, 3位数)  $\times$  (1位数) の筆算の仕方を理解し, (2, 3位数)  $\times$  (1位数) の計算を筆算や暗算でできる。  
 (2) 十進位取り記数法を基にして, (2, 3位数)  $\times$  (1位数) の筆算の仕方を考えることができる。  
 (3) (2, 3位数)  $\times$  (1位数) の筆算に関心をもち, 計算の仕方を考えようとする。

## 標準的な展開例

03040208\_001

【準備等】計算棒, お金の模型 (10円玉, 100円玉)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (何十) <math>\times</math> (1位数), (何百) <math>\times</math> (1位数) の計算をする。[p. 22・p. 23]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1個10円のチョコレートを買った時の代金を求める</li> <li>○ 本単元の学習課題をつかむ。</li> <li>★ (2けた) <math>\times</math> (1けた) や (3けた) <math>\times</math> (1けた) の計算のしかたを考えていこう。</li> <li>○ 1個20円のあめを3個買う問題と1個200円のプリンを3個買う時の代金を求める問題に取り組む。</li> </ul> <p>○ <math>30 \times 4</math>, <math>300 \times 4</math> の計算の仕方を考える問題に取り組む</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 (2位数) <math>\times</math> (1位数) の計算の仕方を考える。[p. 24]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「みんなで考える問題」の式を考え, 答えの見当を付ける。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 計算棒を使って, (2けた) <math>\times</math> (1けた) の計算のしかたを考えよう。</li> <li>○ <math>12 \times 4</math> の計算の仕方を考える。</li> <li>○ <math>13 \times 4</math> の計算をしたり, 計算の仕方を説明したりする。</li> </ul> <p>3～4 (2位数) <math>\times</math> (1位数) で, 積が100未満の筆算をする。[p. 25・p. 26]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ <math>12 \times 4</math> の筆算のしかたを考えよう。</li> <li>○ <math>12 \times 4</math> の筆算の仕方を確認する。</li> <li>○ <math>20 \times 4</math> を筆算で解く。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> <li>○ <math>24 \times 3</math> の筆算の仕方を考える。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 一の位にくり上がりのある筆算のしかたを考えよう。</li> <li>○ (2位数) <math>\times</math> (1位数) で一の位に繰り上がりのある筆算の仕方を考える。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul> <p>5～6 (2位数) <math>\times</math> (1位数) で, 積が100以上の筆算をする。[p. 27・p. 28]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 十の位にくり上がりがある筆算のしかたを考えよう。</li> <li>○ <math>32 \times 4</math> の考え方を基に, 筆算の仕方を考える。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お金の模型を利用し, 計算の仕方や考え方を理解させる。</li> <li>・ 教科書の問題を読み, 本単元の学習課題を把握させる。</li> <li>・ お金の模型を利用し, (何十) <math>\times</math> (1位数), (何百) <math>\times</math> (1位数) の計算の仕方を考えさせる</li> </ul> <p>【評】 十や百のまとまりを使って問題を解く活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>30</math> は <math>10</math> が <math>3</math> 個, <math>300</math> は <math>100</math> が <math>3</math> 個と考えて計算させる。また, 理解しづらい児童には, お金の模型を使って説明する。</li> <li>・ 計算棒を利用して, 計算をする時は, 一の位と十の位を別々に計算することを理解させる</li> <li>・ <math>10 \times 4 = 40</math> であることから, 答えが <math>40</math> より多いことを確認する。</li> <li>・ <math>12</math> を <math>10</math> と <math>2</math> に分け, <math>2 \times 4</math> と <math>10 \times 4</math> の部分積の和として考えさせる。</li> <li>・ <math>12 \times 4</math> の場合と同様に計算すればよいことに気付かせる。</li> </ul> <p>【評】 (2位数) <math>\times</math> (1位数) の解き方を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一の位から計算を進める筆算のよさに気付かせる。</li> <li>・ 筆算の順序, かき方, 唱え方について, 考え方と合わせて理解させる。</li> <li>・ 教科書にある「筆算のしかた」を基にして指導するとよい。</li> <li>・ <math>12 \times 4</math> と同様に計算させ, 一の位は <math>0</math> を書けばよいことに気付かせる。</li> <li>・ 計算で求めた値は位をそろえて書くように気を付けさせる。</li> </ul> <p>【評】 (2位数) <math>\times</math> (1位数) の筆算を解く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分配法則を基にして, <math>4 \times 3</math> と <math>20 \times 3</math> に分ければ九九を使って解けることを確認する。</li> <li>・ 繰り上げた「1」をメモする位置を学年で統一しておいた方がよい。</li> <li>・ 各位をそろえて書くことに気を付けさせる。</li> </ul> <p>【評】 繰り上がりのある筆算を解く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算棒を用いて, 筆算の仕方を理解させる。</li> <li>・ <math>30 \times 4 = 120</math> になることから, 答えが百を超えることを確認する。</li> <li>・ 最初のうちは, 答えの百の位にいきなり「1」を書かせず, 前時と同様に「1」をメモさせた方が, (3位数) <math>\times</math> (1位数) の筆算の際に指導がしやすい。</li> <li>・ 機械的に計算練習をさせるのではなく, <math>1 \times</math></li> </ul>

- 本時の学習課題をつかむ。
  - ★ 一の位と十の位にくり上がりがある筆算のしかたを考えよう。
  - $43 \times 6$  の筆算の仕方を考える。
  - $19 \times 6$  と  $27 \times 8$  を筆算で解く。
  - 「練習問題」に取り組む。
- 7 練習問題に取り組む。[p. 29]
- 「練習」に取り組む。
- 8～9  $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$  で、一の位に繰り上がりのある筆算をする。[p. 30・p. 31]
- 本時の学習課題をつかむ。
  - ★  $(3 \text{ けた}) \times (1 \text{ けた})$  の筆算をしよう。
  - $212 \times 3$  の筆算を試みる。
  - 「練習問題」に取り組む。
  - $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$  の筆算をいろいろ作って計算する。
  - 本時の学習課題をつかむ。
  - ★ くり上がりに気をつけて筆算のしかたを考えよう。
  - $387 \times 4$  の筆算の仕方を考える。
  - $406 \times 7$  の筆算の仕方を考える。
  - 「練習問題」に取り組む。
- 10 練習問題に取り組む。[p. 32]
- 「練習」に取り組む。
- 11 簡単な  $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$  の暗算をする。[p. 33]
- 本時の学習課題をつかむ。
  - ★ かけ算を暗算でしてみよう。
  - $21 \times 4$  の暗算の仕方考える。
  - $23 \times 4$  を暗算で求める。
  - 「練習問題」に取り組む。
- 12 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 34・p. 35]
- 「たしかめよう」に取り組む。
  - 学習の振り返りを書く。

$4 + 30 \times 4$  などのように筆算の成り立ちを考えさせるとよい。

【評】  $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$  で、十の位に繰り上がりのある筆算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・  $3 \times 6$ ,  $40 \times 6$  の順に計算すればよいことを気付かせる。
- ・ かけて繰り上がるだけでなく、たして繰り上がる場合もあることに気付かせる。
- ・ 筆算の計算では位をそろえて書かせる。

【評】  $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$  で繰り上がりが2回ある筆算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ つまづいている児童には、個別指導を十分に行う。

- ・  $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$  の筆算の練習問題に取り組ませる。

【評】 「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 既習事項を基に、自力で考えさせる。

- ・ 計算棒を基にして考えさせ、 $2 \times 3$  (一の位)  $1 \times 3$  (十の位),  $2 \times 3$  (百の位) の順に計算すればよいことに気付かせる。

- ・  $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$  の計算の仕方と同様であることに気付かせる。

【評】  $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$  で、一の位に繰り上がりのある筆算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 繰り上がることによって、積が4桁になる場合もあることに気付かせる。

- ・  $7 \times 4$  (一の位),  $8 \times 4$  (十の位),  $3 \times 4$  (百の位) の順に計算すればよいことに気付かせる。

繰り上げた「2」や「3」をメモする位置を学年で統一するとよい。

- ・ 十の位に0のある問題では、一の位で繰り上げた4と  $0 \times 7$  の0を合わせて4になるということを確認する。

【評】  $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$  で、繰り上がりが3回ある筆算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【評】 「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 暗算の仕方と唱え方をまとめ、簡単な問題は暗算で計算するようにさせる。

- ・ 簡単な問題を暗算で計算することの必要性に気付かせる。

- ・ 見当を付けて考えさせるとよい。

- ・ 23を20と3に分け、 $20 \times 4$  の積と  $3 \times 4$  の積を合計すればよいことに気付かせる。

- ・ 十の位のかけ算と一の位のかけ算の答えを声に出させて行う。

【評】 簡単な  $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$  の暗算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。

- ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 1桁をかけるかけ算の筆算について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみいたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元では、(何十・何百)×(1位数)を発展させ、(2, 3位数)×(1位数)の計算を筆算でできるようにする。筆算の導入に当たっては、まず、十進位取り記数法に基づいて、位ごとに分けて計算することのよさに気付かせることが大切である。その上で、この考えを筆算形式と結び付けて、筆算の順序、書き方、唱え方を知らせ、筆算の仕方を理解させるようにするとよい。